

子どもが育つ遊び ～0・1・2歳児の発達に合わせた環境とおもちゃ～

瀧 薫 城東よつばこども園園長

環境を作る上で大切にしたいと思うことは、安心して過ごして、心も体も健やかに育つ、そんな豊かな保育環境をどのように作ればいいのかということでしょう。保育室は寛げる空間でなければなりません。物や情報があふれている今、私達に必要なのは、何でも入れ込むのではなく、引き算の考え方ではないでしょうか。

では、どのような環境がいいのでしょうか。子ども達は起きている時間の多くを園で過ごします。ですから園は、乳幼児にふさわしい体験が得られるように、小学校の先取りではなく、今大切なことを大事に育てていきましょう。近年、子どもが育つ環境は大きく変化しています。今まで地域や家庭に普通にあった子ども達に必要なものが無くなりつつある今、園は最後の砦なのかもしれません。

主体的な遊びが成立するためには「3間（時間・空間・仲間）」が必要とされています。幼い子ども達は物を触りながら発達するので、物的環境と子ども自身の心の在り様、体の健やかさが大切です。そして、子ども達をどんな存在ととらえているのか、その子達の未来に向けてどのように思っているのか、どんな体験を子ども達にして欲しいと願っているのか、私達の子ども観が問われるということです。

皆さんは生きていくことが辛いと思うとき、どんな人に相談したくなりますか。一方的に何かを教え込んだり、良い悪いだけを押し付けたりするような人のところには相談しに行こうとは思わないでしょう。それは乳児保育で大切にされていることと同じです。応答的で丁寧な受容的な関わりがあるからその人を信頼できる、これがあるからまた明日も一歩踏み出そうと思えるのです。

「やってみたい」は発達の原動力です。本能的にやってみたくなること、「なんだろう」「おもしろそう」「かかわってみたい」「できた」の先に先生の笑顔があるから、自主性・向上心につながっていきます。もう一つ、「この子は困った子、乱暴な子」という見方をしていませんか。周りの大人が「この子は乱暴だ」と思っている環境で育つのと、「この子は優しいんだ」と思う環境で育つのは大違いです。

遊びの道具があることで、私達はその子の心の育ちを知ることができます。ですから保育者は、丁寧に道具を用意して遊びやすい環境を作り、見守る、そして子ども達は、見守られ、自己を発揮し、生活の主人公になっていく、これが保育の真髄です。